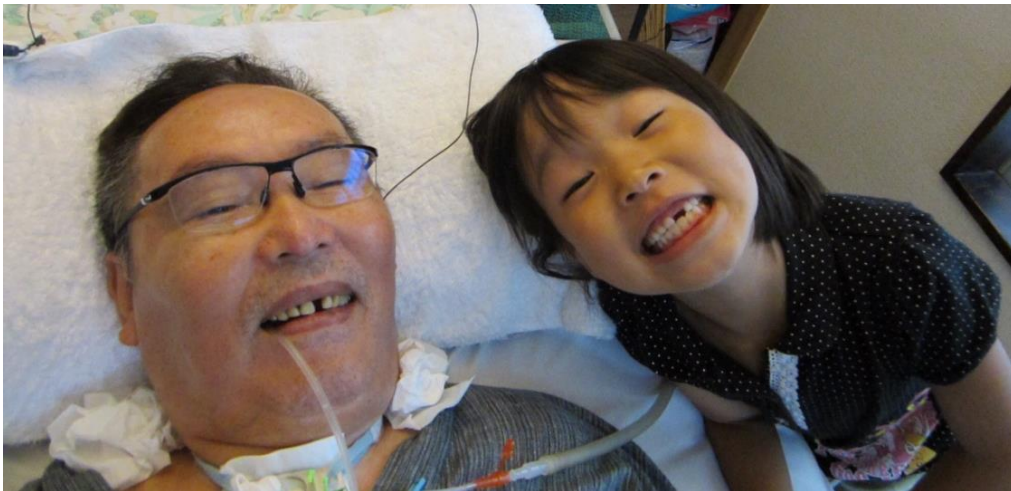


# 「人工呼吸器をつけて！もっと生きようよ！」

世界の ALS 患者に この言葉を伝えに行くための 渡航費用が 足りません！  
あなたのお力添えを必要としています！

ALS(筋萎縮性側索硬化症)は、全身の筋肉を動かせなくなり、寝たきりになる難病です。国内では、人工呼吸器を使用する患者は、3 割以下と言われています。つまり、呼吸をするための筋肉が衰えてきた段階で、7 割の患者が、呼吸器の装着をせずに死を選んでいる(選択させられている)ということです。

ALS 患者のわたくし増田英明は、人工呼吸器を着け、各種制度を利用し、京都で地域生活を続けています。地域で生きようになってからは、健康な頃よりも多様な人たちとの交流が増え、充実した日々を生きています。



このたび、患者である私は、アメリカのボストンで開かれる ALS 国際学会にて、ALS 患者みんなが生きられる道を伝え、世界の患者と連帯するチャンスを得ました。

しかしながら、介助者を伴うボストン渡航には、200 万円以上の金額が必要であり、自力で賄うことは非常に難しいです。12 月 6 日の渡航まで時間がありません。どうか皆さまのご協力・ご支援をよろしくお願い致します。

ご協力いただいた支援金は、

J C I L (日本自立生活センター) 京都市南区東九条松田町 28 メゾンガラス京都十条 101 TEL:075-671-8484 FAX:075-671-8418 がお預かりさせていただき、クラウドファンディング「マスダ・ボストン・チャレンジ」(<https://readyfor.jp/projects/Masuda-Boston-Challenge>)の支援金とさせていただきます

このたび、ALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症している、わたくし増田英明は、アメリカ・ボストンで開催されるALS国際学会（2017年12月6日～10日）に参加・報告をするため、11月17日～12月1日までクラウドファンディングを実施する予定です。皆さま、どうかご協力のほど、よろしくお願い致します。

ALSは、筋肉を動かす運動ニューロンの障害によって身体が動かせなくなる難病で、近年アイスバケツチャレンジなどを通して広く知られるようになりましたが、まだまだ当事者やその家族の現状については知られておりません。日本においても人工呼吸器を利用する患者は3割に満たないと言われていたますが、他国ではもっと少ないのが現状です。呼吸をするための筋肉も衰えていくALS患者にとって人工呼吸器を装着しないことは死を意味しますが、それを自ら、あるいは家族によって、選択している現状があります。

わたしは、ALS患者みんなが生きられる道を作りたいと考えており、社会制度を活用しながら京都で地域生活を続けています。地域生活をするようになってからは、障害者や高齢者、大学生など多様な人たちとの交流が増え、健康な頃よりも社会的存在であることを実感し、自分にできることを模索したり目指すようになりました。

ALS国際学会では、今年度より患者のセッションが設けられるようになりました。そこで、自分が人工呼吸器と介助者の力を借りて、地域の人たちとどのように生きてきたかを、他国の人たちに伝えに行きたいと考えています。他国のALS患者に働きかけ、国を超えた仲間の連帯を目指したいと思います。

しかし、介助者を伴う渡航には多額の金額が必要であり、それを自力で賄うことは非常に厳しいです。そこで、今回、海外渡航・報告のプロジェクトを立ち上げました。実施まで時間ありませんが、どうかご協力・ご支援を宜しくお願い致します。

増田 英明

---

クラウドファンディングについて

**「マスダ・ボストン・チャレンジ」で検索！**こちらでもご協力よろしくお願ひします！

実施期間：11月17日～12月1日

URL：<https://readyfor.jp/projects/Masuda-Boston-Challenge>

